

平成26年度第1回川崎市政策評価委員会 摘録

- 1 開催日時 平成26年7月8日(火) 13時30分～15時00分
- 2 開催場所 川崎市役所第3庁舎15階 第1会議室
- 3 出席者 委員 垣内委員長、川崎副委員長、生駒委員、米原委員、浅野委員、
戸田委員、能條委員
総合企画局都市経営部 唐仁原部長
総合企画局都市経営部企画調整課 阿部担当課長
総務局行財政改革室 鈴木担当課長
事務局 総合企画局都市経営部企画調整課
対馬担当課長、青木担当係長、小西職員
- 4 議事
 - (1) 第3期実行計画 事務事業総点検及び施策評価の実施結果(案)について
 - (2) 各委員による施策評価の検証結果について
 - (3) 「平成25年度 施策評価の検証結果」の骨子(案)について
 - (4) その他
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

議事(1) 第3期実行計画 事務事業総点検及び施策評価の実施結果(案)について

垣内委員長) 事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

唐仁原部長) 一点補足させていただきたいが、今の事務局からの説明資料の中で、事務事業及び施策について、目標を下回ったものがほとんどなく、90%以上の事務事業・施策が目標を達成したという状況になっているが、そもそも川崎市の総合計画の作りとして、着実に事業を推進するため、3年間の計画期間中の予算を担保して実行可能な目標を掲げているため、ある意味で目標を達成して当然というような形になっている。目標に対する達成度が高いということはこういったことの裏返しであるということを理解いただきたい。

垣内委員長) 財源の裏打ちがあって、想定される成果を得たということであるが、何か質問等はあるか。ないようならば、後ほどまとめて質問することも可能であるため、議事を先に進めたい。

議事（２）各委員による施策評価の検証結果について

垣内委員長）事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

まずは、今回初めて、施策評価の検証作業を行った委員から意見や感想を伺いたい。

戸田委員）総括的コメントにも記載したが、似たような施策で同じ参考指標を使っているものが見受けられた。成果の使いまわしのように見えるため、施策を統合したり、指標を変えた方が、市民からすると分かりやすいと思う。

対馬担当課長）本市の指標は、参考指標という取扱いになっており、当初から施策に設定しているものもあるが、委員等からの指摘を踏まえて、効果的に参考指標を追加できるような仕組みになっている。ただし、この参考指標をどう評価に生かしていくかという点については、確立されていないため、新たな総合計画を策定する中で、効果的に成果指標を設定し、それをどう評価し、市民に対して分かりやすく見せていくことができるか、検討しているところである。

垣内委員長）施策評価の検証作業をしている中で、施策や参考指標が重複しているという認識はあった。この点については、事務局から説明があったように、市民が見て分かりやすいよう、より目標を明確にしていっていただきたい。

浅野委員）今回初めての施策評価の検証作業ということで、評価の判定に困ったが、市民目線で分かりにくいものについては、要改善の判定をした。

能條委員）検証作業を行っていく中で、各施策の目標が「～を推進する」など定性的な表現が見受けられ、分かりにくいという認識があった。民間企業で企画部門に勤めていたときは、定量的な目標を掲げ、あるべき姿（到達点）を明確に業務を遂行していたが、今回ように到達点が分かりにくい状況では評価しづらかった。

また、複数年の計画になっているため、最終的な到達点を示すだけでなく、中間年で目標値を設定することで、計画途中で最終目標との開きも確認でき、軌道修正も可能となる。

対馬担当課長）浅野委員の意見として、分かりにくいものがあるとの指摘について、市民が分かりにくい用語については、評価票の用語説明欄でなるべく分かりやすく解説しているが、用語だけでなくそもそも当該施策の事業内容が難解なものもあり、どのレベルまで分かりやすく説明すればよいか、悩ましい部

分がある。分かりやすい視点を踏まえつつ、事業内容を的確に説明できるよう、いただいた御意見を踏まえて、今後の総合計画を策定する上で工夫をしていきたい。

能條委員の御意見で、目標の到達点が分かりにくいとの指摘について、これまでの委員会でも言われていることであるが、その主な理由としては、元の総合計画の作りが、「～を組みます」などのアウトプット型の表記になっており、明確な数値目標が設定されていない傾向にあるからである。新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」を策定した10年前は、総合計画に明確な数値目標を掲げた自治体が出始めた時期で、川崎市は今の形の総合計画に落ち着いたが、その後明確な数値目標として、成果指標を取り入れる自治体が増えた。ただ最近では、事業に指標を設定することによって、指標を達成することばかり目指して、その事業における他の取組がおろそかになるという課題も出てきている状態である。本市としては、委員の方々の意見を受けて、目標や課題を明確にし、その後の評価において、数値目標を効果的に活用したり、中間点で目標値を定めるかなど、新たな総合計画の策定の中でこういったものが効果的であるか検証していきたい。

米原委員) 全体的に辛口な評価になってしまったと思うが、できるだけフィードバックを出したほうが、今後役に立つと思いい、コメント付きで厳しく評価をしたので、施策課題の所管課にはそういった趣旨であることを伝えてほしい。

検証作業をしているときに疑問に思ったことであるが、この評価票を記載している所管課は、政策評価委員会での評価の視点を知っているのか。

対馬担当課長) 検証マニュアルを所管課に配布し、政策評価委員会の評価の視点を理解してもらった上で、評価票を記載してもらっている。

米原委員) 良くも悪くも、評価のチェックシートのポイントを理解して書けば、満点を取ることも可能であると思うが、それが良いことなのか悩ましく思っているところがある。今回は厳しく評価をしたが、この評価結果は、どのように取り扱われるのか。

垣内委員長) 今回検証した施策の全体の意見として、政策評価委員会の提言をまとめるが、個別の評価票に対する各委員の評価結果は、取りまとめる冊子には掲載されないが、評価票を記載した所管課にフィードバックされる形になっている。

対馬担当課長) 今年度は、実行計画の最終年ということで、指摘いただいた内容を次年度に直接反映させることができないが、先ほどから出てきているような課

題や目標が抽象的であるということについては、元の総合計画の記載方法に起因するものなどであり、今後新たな総合計画を策定する中で、その部分を改善できるよう努めていきたい。

生駒委員) 評価・検証の対象である計画中の目標描写のあり方については、この委員会での審議を通して最も課題と意識しているところであり、今後、新たな総合計画を策定するにあたってポイントになってくると思う。

米原委員の感想にもあったが、私も最初に検証作業を行った際は、厳しく評価をしてしまった。その後検証作業を行っていく中で、施策によっては、明確な目標を設定しづらいものも多くあり、そのため施策進行管理・評価票の記載に苦労しているケースもあると感じた。また、委員を継続していると、基本的に毎年度、同じ施策の進行管理・評価票を検証することとなっているが、例えば、目標が分かりづらいという前年度のコメントに対して、次年度には、目標の達成時期や指標が追加されていたり、文章の構造を分かりやすく表記されていたりと、様々な工夫によって施策進行管理・評価票の記載が改善されていることを理解できた。そうすると翌年度以降の検証による判定結果は自ずと改善傾向になる。こうした一連のプロセスを見ることができたことは有難いことであった。

垣内委員長) 検証結果については、専門分野だから厳しくなったり、逆によく知っているからこそ判定が甘くなったりと、難しい部分がある。川崎市は、145万都市であり、色々な経験を持った方や様々な分野を専門にしている方がこの評価票を見ることを考えると、多種多様な意見が出ると思うが、この委員会として、一部ではあるがこんな意見や見方があるということ伝えることができれば、委員会を行う一つの大きな役割になると感じている。

川崎副委員長) 今回4人の方が新しい委員となり、検証作業の判定結果が厳しくなると思っていたが、結果として「良」と「可」の割合が昨年度より若干改善しており、フレッシュな方が見ても、ある程度の分かりやすさは実現できているのではないかと感じている。一つには、検証マニュアルが改善されてきているとも言えるし、みなさんの努力もあると思うが、その点はこの政策評価委員会による貢献があったと思う。

また、今までは「要改善」の判定があったところを論点として改善を図ってきたが、判定結果の一覧を見ると、全てのチェックポイントで「良」という施策も多くあり、今後そういった良い事例について研究してみてもいいと思う。

垣内委員長) 川崎副委員長と同様に自分もこの委員会の委員として長いですが、自分が担

当している施策については、年々分かりやすくなっていると感じている。分かりやすくなれば、市民にも伝わっていくと思う。ただし、2点ほど課題として感じているところがある。1点目は、目標や課題、施策そのものに重複感があるというところである。自転車に関連した施策だけでも2つあり、医療関係でも危機管理施策としての新型インフルエンザ対策や一般的な感染症対策など、細かく施策が分かれており、市民にとって分かりにくくなっていると思う。2点目は、施策の事業費として数百億円も計上しているものと、金額が数百万円のものについて、同じ視点で評価していることについてやや疑義を感じており、今後新たな総合計画を策定する中で検討して欲しい。

議事（3）「平成25年度 施策評価の検証結果」の骨子（案）について

垣内委員長）事務局から提示された資料3が、公表される検証結果の骨子（案）になる。検証作業を通じて各委員が感じた部分があれば、御意見をいただきたい。

米原委員）提案として、今後ロジックモデルのようなものを取り入れて政策を組み立てていくような可能性はあるか。自分が担当していた中で、重複している施策もあり、まず大きな政策のくくりで、その目標を達成するためには、どういう状態・状況にしなければならないというものがあるって、その状態・状況にするために視点をブレイクダウンして、個々の施策・事務事業を考えていくことになる。それがまさにロジックモデルであり、全体を俯瞰して施策・事務事業を見ていく視点があれば、自然と重複している施策や事務事業が集約されてくると思う。

対馬担当課長）新たな総合計画をどういった形で作っていくかは、まだ固まっていない状況である。ただし、最終的に合意が取れるか分からないが、成果指標を効果的に活用したり、長期に目標を設定する場合は中間値を設定することなどは必要であると考えている。

唐仁原部長）新たな総合計画の策定における基本的な考え方については、概ね30年くらい先、川崎市が人口減少に転ずる時期を見越して、今後10年間でどういった状況にしなければならないのか、その状態を達成するにはどういった施策が必要なのかを、議論していくことになると思われる。よって、米原委員が言われたような考え方で作り始めているが、実際に計画になったときに、全ての項目に明確な目標が設定されているかということ、行政だけでは決められず、市民や議会で議論いただいて決定すべき目標も当然あり、その結果定性的な表現になってしまうものもあると思われる。ただし、総合計画策定の

基本的な考え方としては、米原委員が言われたものと同じような視点で取組を進めている。

対馬担当課長) 施策の重複感について、現在の計画では施策課題は261あり、非常に細かくなってしまっている。新たな総合計画を策定の中でも、政策体系がどういった形が分かりやすいかの見直しを図っており、今より大きくくりで施策を束ねる方向で検討している。その際、行政の組織のあり方も関係してくるので、ある程度大きくくりにしても、どうしても重複感は出てくる可能性はある。その時に見せ方、評価の手法も含めてどういった工夫ができるのか考えていく必要がある。

川崎副委員長) 今の総合計画は、予算とも連動し、行政の組織の積み上げでできているが、逆に大きなところから総合計画を考えても、市だけではできない部分があったり、国や外部環境に依存してしまう部分があるなど、結局バランス感覚が重要になってくると思う。予算との連動を考えると、どうしても行政組織の単位で施策や事務事業を設定する形になってしまうが、総合計画で定めた目標に向かって順調に施策や事業が進捗しているかどうかなど、もっと市民よりの視点に立って、総合計画における評価を考えてほしい。

唐仁原部長) 現在の計画では、予算と連動した事務事業が約1600あり、それが積み上がって総合計画ができている。先ほど、垣内委員長から指摘があったとおり、感染症一つをとっても、複数の施策の切り口があるが、これは例えば国庫補助が入っているものといないものなど、行政内部の組織から見れば分かりやすいが、市民から見たら分かりにくくなっているものもあると思われる。

対馬担当課長) 今後は、市民の方に分かりやすく情報を提供する必要があると認識している。分かりやすく情報提供するには、分かりにくい用語をなるべく避けたり、成果指標を導入したり、中間的な目標値を定めるなど手法が色々あると思う。また、網羅的に評価を行うのではなく、事業費が大きなものや市民が興味ある事業など、重点的な施策等について評価を行っていくことなども考えられ、その先に議論がなされるような評価制度を検討していきたいと考えている。

生駒委員) 施策評価の検証結果の公表という点では、市民向けに公表するものと、行政内部で進行管理していくものは分けて考えていくべきだと思う。この施策進行管理・評価票も、分かりやすくはなっているが、市民にとってはまだ理解し易いものではないかも知れないと思う。

また、資料3の「平成25年度施策進行管理の検証結果」の骨子（案）の3の今後の課題と取組の方向性の（2）評価結果の公表方法の工夫の中で、「・・・市民に対して分かりやすく伝えるためには、内容にメリハリをつけるなどの一層の工夫が求められる。」とあるが、「内容にメリハリをつける」とは具体的にいうとどういうことを想定するものなのか、教えてほしい。例えば、記述の強弱をつけることなのか、項目や見出し等をつけることでの構造化を図るものなのか、視覚的・見た目の工夫をすることなのか。

また、全体に係わることであるが、これまで委員会として年度ごとに検証結果の提言をまとめているが、今回の検証及び提言は、新たな総合計画策定に向けての区切りになると思うので、これまでの委員会の提言をまとめて俯瞰したような内容としてもいいのではないかと感じた。

対馬担当課長）内容にメリハリをつけるということは、昨年度の提言の中で公表方法について工夫をすべきとの意見があり、市民向けに分かりやすく内容をまとめたものを公表していくという趣旨であったが、今年は実行計画の最終年ということで今までの流れもあり実現できなかったが、次の総合計画では、内容や見せ方も含めて、市民向けに分かりやすいものを作っていきたいと考えている。

また、これまでの委員会の提言を俯瞰した内容にすべきということについては、「課題が明確でない」や「目標が抽象的」などの意見が初期の委員会から言われていることであり、それらを今回の委員会の提言に反映させることで、委員がおっしゃったような形になると考えている。

能條委員）資料3の「平成25年度施策進行管理の検証結果」の骨子（案）の3の今後の課題と取組の方向性の（3）今後の評価制度の中で、「評価の手法等について改めて見直しを行い」とあるが、今回の委員会の中では直接議論していないと思うがこういった趣旨か。

対馬担当課長）例えば、資料2-2の6ページの総括的な意見の中で、施策の事業費に大きく差があるものについて、同じ視点で評価してよいのかなどの意見をいただいているので、「見直し」という直接的な言い方にするかは検討させていただきたいが、昨年度の委員会でも分かりやすさという点については、一定程度達成したという意見もいただいているので、より分かりやすいものにしていくには、ある程度制度に踏み込んだ改善が必要ではないかと思ひ、こういった表現になっていることを理解いただきたい。

議事（4）「その他（スケジュール）」について

（意見等特になし）